

みゆきみち
【御幸道とは】

御幸道とは、石清水八幡宮の一ノ鳥居から続く街道です。一ノ鳥居から北上し、淀川の堤防沿いの京街道につながっています。今回の調査では、御幸道の両側溝と推測される溝が見つっています。

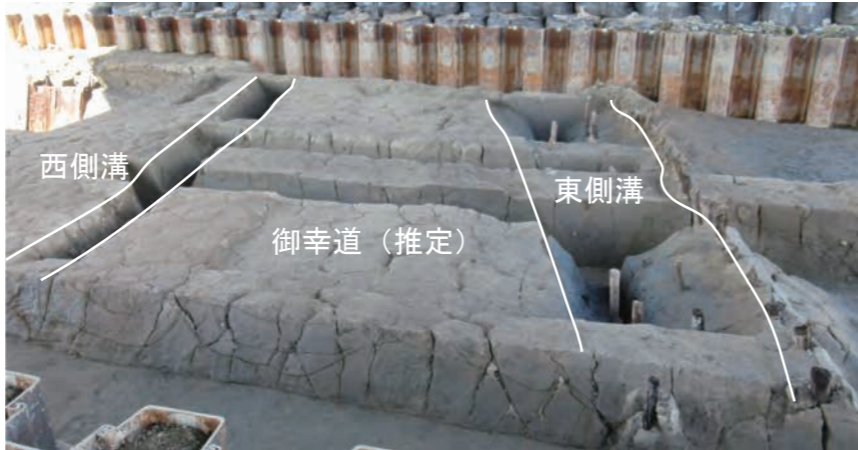


写真5 御幸道の道路側溝と考えられる溝

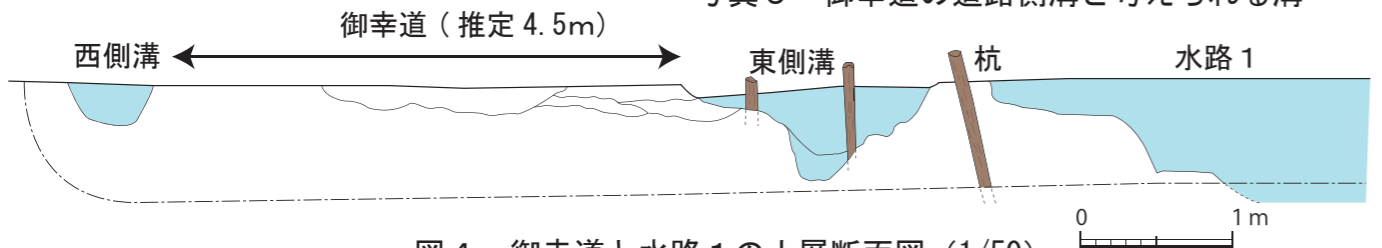


図4 御幸道と水路1の土層断面図 (1/50)



図5 『八幡山上山下惣絵図』(国立公文書館内文庫蔵 資料 148-1207 18世紀)

時代	できごと
旧石器時代	
縄文時代	
弥生時代	
250	古墳時代
	飛鳥時代
710	奈良時代
794	平安時代
1185	鎌倉時代
1333	南北朝時代
	室町時代
1603	安土桃山時代
	江戸時代
近代	

木津川河床遺跡の時期

- 古墳時代: 竪穴建物2
- 飛鳥時代: 竪穴建物1・3
- 平安時代: 貞観2(859)年 石清水八幡宮が創建される
- 鎌倉時代: 井戸
- 江戸時代: 水路1 道路側溝 『八幡山上山下惣絵図』に御幸道が描かれる
- 明治2(1869)年 木津川の現在の位置への付け替え

【まとめ】

今回の調査では、古墳時代前期の竪穴建物1基、飛鳥時代の竪穴建物2基、平安時代末～鎌倉時代初頭の木組み井戸1基と、江戸時代の道路の側溝と考えられる溝2条と護岸をした水路が見つかりました。古墳時代から江戸時代まで、各時代の遺構を確認したことから、調査地周辺は明治2年の木津川付け替え以前は暮らしに適した安定した土地であったと考えられます。とくに江戸時代の道路側溝と水路は、石清水八幡宮の絵図に描かれた「御幸道」と「放生川」から北に延びる水路と推定され、石清水八幡宮とともに発展した周辺の地域史を考える上で貴重な資料を得ることができました。

きづがわかしょういせき

木津川河床遺跡 第37次調査



調査遺跡 木津川河床遺跡
調査場所 京都府八幡市八幡
調査期間 令和3年6月1日～9月末(予定)
調査機関 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター



表紙写真1
調査区西半全景(北から)

木津川河床遺跡は八幡市北部に位置する遺跡です。

過去に周辺で行われた発掘調査では、弥生時代から江戸時代まで数々の時代の遺物、遺構が確認されています。

今回の調査では、古墳時代前期と飛鳥時代の竪穴建物、中世の井戸、江戸時代の水路と、道路側溝と推定される遺構などがみつっています。



表紙写真2
江戸時代の道路側溝と水路1(南西から)

【調査の概要】

今回の調査では、古墳時代から江戸時代にかけて、幅広い時代の遺構を確認しました（図3）。

調査区西側では、古墳時代前期前葉の竪穴建物や溝、飛鳥時代の竪穴建物が見つかりました。飛鳥時代の建物は、かまどをもつ竪穴建物1（写真1）や、鉄滓などの鍛冶関連の遺物が出土する竪穴建物3があり、建物の周囲からは炭化物や焼土を含む土坑を検出しました。建物3は鍛冶工房として使用された可能性があります。木津川河床遺跡で飛鳥時代の遺構が確認されたのははじめてです。

調査区中央では平安時代末～鎌倉時代初頭の井戸が見つかりました。井戸は、径約5.0mの六角形状の掘形をもち、井戸枠は一辺1.2mの正方形に組まれています。井戸の深さは1.8m以上を測り、四隅に柱をもち、縦板と横木を組み合わせた構造になっています。（写真2・3）

調査区中央東寄りでは、幅7m、深さ1.2mの大規模な江戸時代の水路1が見つかりました（写真4）。水路1の西肩は、杭列を密に打ち込み護岸されています。水路1の西側では道路の側溝と推定される2条の平行する溝を検出し、京街道につながる「御幸道」に伴うものと考えられます。

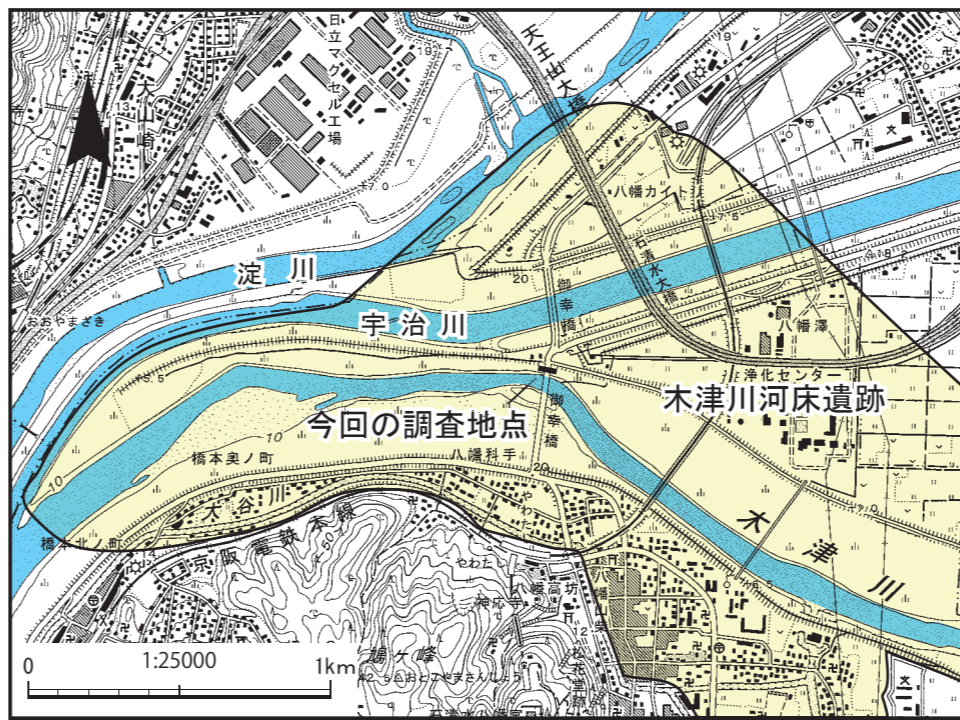


図1 今回の調査地点（1/25,000『淀』を使用）

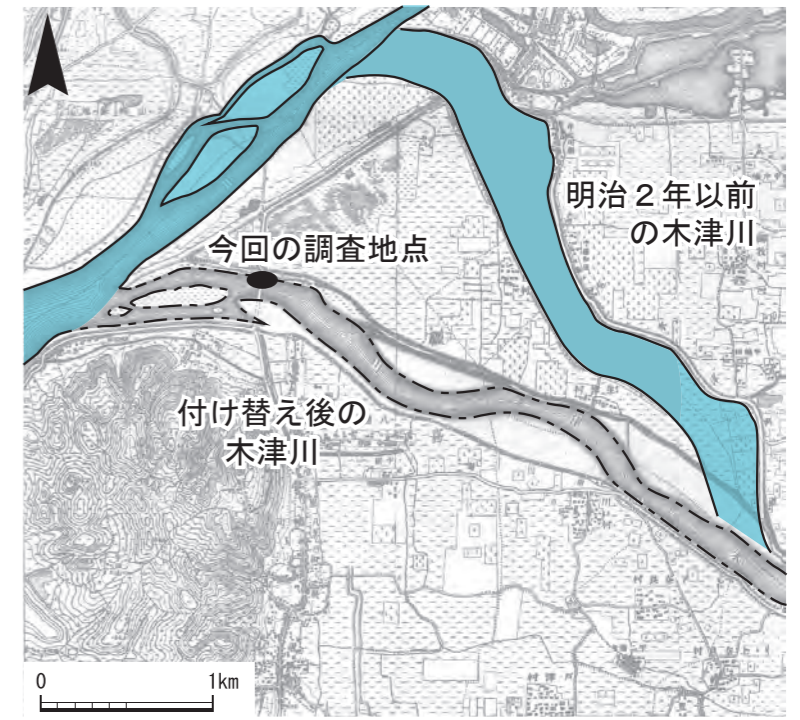


図2 明治2年（1869年）以前の木津川の流路
（仮製地形図明治23年測量『淀』を使用）

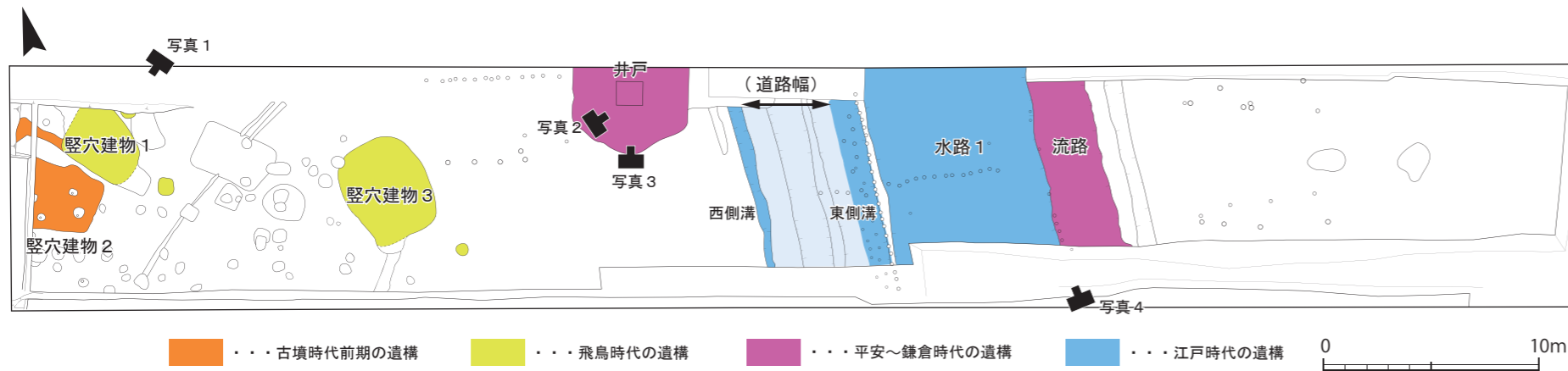


図3 調査区平面図（1/300）

【木津川の付け替え】

現在の木津川は、今回の調査地と石清水八幡宮の間を流れています（図2）。しかし、明治2年（1869年）までの木津川は現在より約2km東を流れており、今回の調査地から石清水八幡宮までは陸続きでした。今回見つかった水路1は、放生川（図5 現在の大谷川）からの水を北へ流すためのものと考えられます。



写真1 飛鳥時代の竪穴建物1（北東から）



写真2 井戸検出状況（西から）



写真3 井戸縦板出土状況（南西から）



写真4 江戸時代の水路検出状況（南から）